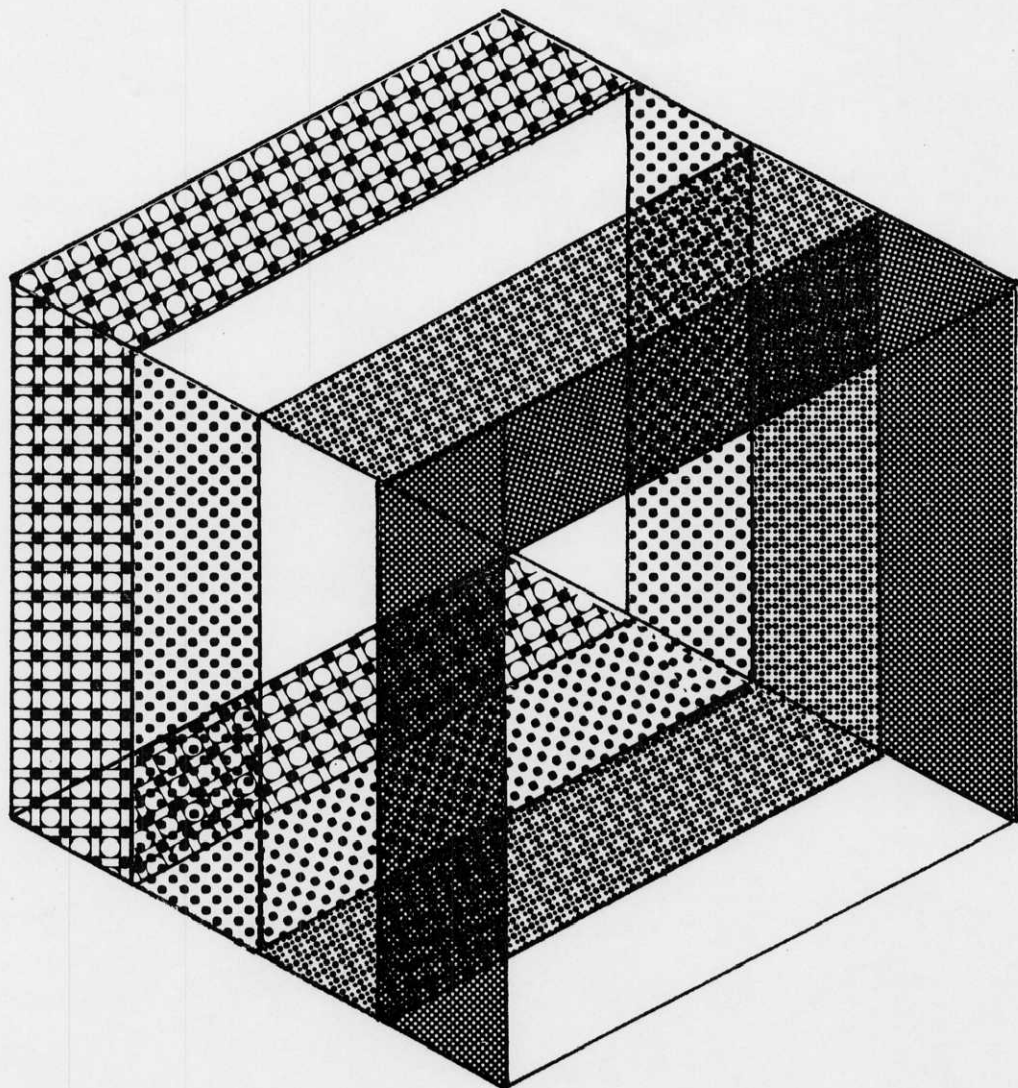


# 月報 岡崎の教育

50年度 NO.23~34



岡崎市教育委員会

月報

# 岡崎の教育

4月号



## 人を動かすべきもの

作品が、最も正直に最も露骨に作者の内心を写すことは、あたかも鏡なるものが明らかにその人の顔を映す通りにして、作品は、その作者の精神をありのままに映すものである。しかれば、如何に推敲したりとて、また如何に糊塗したりとて、各自の精神に驕飾あり、至誠至情より発するに非ざれば、決して人を動かすべき妙詩・名文・好画は発し得られぬものである。

志賀重昂全集八巻 随筆集より

昭和50年4月1日

編集／発行

岡崎市教育委員会



(開校のよろこびの中で迎える入学式— 緑丘小)

近年、著しい経済成長による物質的な繁栄の陰で、自然が次第に破壊され、それにつれて自然と人間との交流が次第に失われて行こうとしている。

もともと、すべて国民性というのは、その国の風土のな特色に影響されることが大いのである。例えば日本人の伝統的性格である自然愛好、生の享受、祖先崇拜、自己否定、タテ社会等は、日本が

て対処できるようになり、それが日本人の心性にも大きな影響を及ぼすに至ったのである。

すなわち、昔のような忍従性や受容性等の特性が次第になくなって来ている。

そして、次第に技術の進歩によって作り出された「もの」によって、作つたわれわれが疎外され、非人間的な状況に追いやられるようになったのである。

しかし、今日では高次の慾求を求めることが次第に難しくなつて来ている。

最近の社会は管理組織を特徴とするいわゆる管理社会となり、人々の考え方が機能優先に慣れて、人間までも「もの」のように扱ひ勝ちになり、人間が作つた組織によって人間が支配されるようになってきている。

このために、人間関係が非人間的になり勝ちであり、ますます疎外の度を深めつつある。

こうした疎外の現象は、時代の進歩発展と共に、必ず生じる一種の病気のようなものであるといえよう。

それならば、この疎外を克服する道をわれわれは、どこに求めて行けばよいのであろうか。

それは「愛する」こと以外にはないのである。また利己から利他への転換をはかることであるともいえよう。

相手が立派に成長することを願つて、自分の不利益を厭わないで相手のためにつくすという愛である。

勿論、このように完成された愛を生れたときから持つことは出来ないが、成長するにつれ、このような愛を身につけて自分本位の動きを根づよく残しながらも次第に相手本位の愛の態度がとれるよう努むべきであろう。

一人一人が疎外を悲しみ、愛の魅力を求める必要がある。

(愛知教育大学学長)

## 人間疎外と その克服

井上友治



台風の通過地帯にあることと、豊かな四季に恵まれていることに由来するといわれている。

ところが、高度の科学技術の発達によって、かつては逆らうことのできなかつた自然の風土にまで、人工の手を加えることが出来るようになり、台風地帯の特徴である暑熱と湿気、さらに四季の寒暑の変化の厳しさも、冷暖房や除湿によつ

人間は誰でも色々の慾望を持っているが、その慾望にはいくつかの段階がある

すなわち、われわれの慾望はまず衣食住のような身辺的なものから始まり、それが或程度満たされると、それを安定しようとして経済的基盤を求めようとする。

次に、それが或程度満たされると人とつながりのような社会的、情緒的なものを求めるようになる。

## 校 門

いまはむかし



寺院にあるような背丈の高い画一的な門もあれば、鉄筋校舎との釣り合いを考へて、横に伸びた校門もある。戦時、出征兵士を見送つた国旗と海軍旗で飾られた門。入学式の日を指折り数えて、そのとき見た正門。教師と在校生の拍手の中をはにかみながら、正門から出て行く時味わたつた、あの巣立ちの思い。物言わぬ校門にも、時の移り変わりが投影されているといえる。

### 寺と城を結ぶ門

盛装されたお坊さんたちが、下校する児童たちとすれちがった。総門(南の門)をくぐり抜けた子らは、校歌(昭34年制定)をわざと聞こえよがしに大きな声で歌いながら、家へ向かつたという。

### 一南の門のまん中を 岡崎城を絵の

ように みんなの学校大樹寺——  
それには、他校の児童から「大樹寺学校ポロ学校、お寺半分借り学校」と、悪口を言われてきたことへの反発が込められていたのかも知れない。しかしながら、祖洞坊の振り回した総門の貫木で、若い

## 乙川の誕生



### 〈乙見皇子の誕生と乙川〉

むかし、日本武尊東征のとき、吹矢付近の河原で尊の皇子が誕生した。尊は川瀬の音にちなんで「乙見（音見・音水）皇子」と名づけたという。（岡崎古事伝）

むかしの乙川は、広々とした礫州に屏風・鳥帽子・刺石などの奇岩が立ち並ぶ中を、瀬や洑を作って流下していたといふ。現在の河合付近の風景を想像させる。

### 〈現河床より一〇メートル深い古河谷〉

日清紡美合工場が地下水脈探査のために行ったボーリングおよび物理探査の結果によると、大平町南の乙川河床の下には、海拔一〇メートルの石礫で埋まった谷が二本あるという。およそ二万年前にできた地形である。

### 〈段丘の上に発達した町・岡崎〉

岡崎城は、矢作川・乙川にはさまれた段丘の末端部に位置する。シダや雑草におおわれた空堀の側面をよく見ると、こぶし大の領家変成岩の丸味のある礫がまわっている。この段丘の堆積物である。岡崎の市街地は、この段丘面の上に発達

しているのである。

資料によると、この地層はおよそ三万年ほど前にできたという。岡崎城は、海拔約四〇メートルにあるので、乙川は二万年の間に三〇メートルの谷を掘り、その後一万年の間に、その三分の一を埋めたことになる。

### 〈失われつつある貴重な証拠〉

岡崎城をのせるこの段丘礫層は、欠町を通り、国道一号线に沿って大平橋まで続く、比高五〜一〇メートルの崖線の各所で観察できる。欠町礫層と名づけている乙川沿岸で最も発達している段丘堆積物である。

ところで、対岸の大西町には、これより古い段丘が乙川流域でただ一か所観察できる場所があった。比較的多くのセリノリヨク岩礫を含み、美しいかば色のカオリン（粘土鉱物）で充填された礫層である。しかし、現在、竜美が丘の造成地の延長が竹橋まで延び、造成工事のためにくずされつつある。

### 〈乙川のできる以前〉

岡崎の東部に広がる平坦な山地……その延長上に愛宕―明大寺の丘陵がある。この丘陵を被覆している地層―明大寺礫層は、河成礫とはやや顔つきを異にし、北西に行くほど厚く、細粒になる傾向がある。

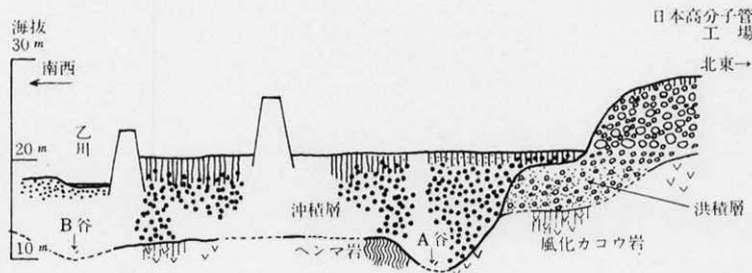
矢作平野は、国道二四八号線に沿って直線状に裁断されたように見えるが、実はこの下に、落差数十メートルの大断層が数本かくざれている（らしい）のであ

る。明大寺礫層は、この断層の活躍と密接な関係があると思われる。三〜四十年前のことであろう。

第三紀の末期から浸食されつつ平坦化されてきた三河準平原も、この時期から再び若返り（回春）、深い谷をきざみはじめるのである。その最も大きな一筋が、われらが乙川―大平川なのである。

（現職教育委員会理科部）

—大平町南西の乙川河床断面予想図—



家康の命が救われたことはあまりにも有名であるし、本堂、山門、正門が一直線に並び、総門の中に岡崎城が一幅の絵のように納まっている眺めなどは、大樹寺小ならでのことであろう。

### さすが本場の石の門

常磐中学校の正門は、石柱では市内随一のものであろうか。高さ約四・三五メートル、まわり約三メートルの花崗石でつくられた堂々たるものである。

石材は、学校のすぐ東隣の石切場から出したというが、学校自体が大きな岩盤の上に建っていると聞いて驚いた。

国民学校時代、登下校時に校門の所で、奉安殿に向かって最敬礼をした思い出をもつ人は多いことだろう。

山の夕暮れは早い。夕暮れの淋しさと怖しさが四方から押し寄せてくると、校門は魔性的存在となる。みんないっせいに校門を駆け抜けたという。

### 学園の理想の姿を表す門

梅園小の正門（昭43年竣工）は、三つの石が一つの石を囲むようにしてつくられている。それは、学区、父母、教師が子どもたちをはぐむ姿を意味している。しかも、これらの石は、かつての校門の石を生かしての装いであり、門の袖は、旧校舎の礎石をそのまま利用したものであるという。

創造の中にも、伝統の重みが生かされていることを知る。

（深見正松・横田純也・鈴木基弘氏の  
お話から）

戦後三十年

復興の槌音の中から甦った岡崎の教育は、幾多のすぐれた創造的な実践を生み、高い教育水準と教育施設を誇って会日に至っている。しかし、目まぐるしく変わる現代社会の中で、教育もまたひとつの転機を迎え新しい発想を迫られている。

わたしたちは、今日の岡崎の教育をつぶさに検討するとともに、二十一世紀に生きる子どもたちのために、十年後、二十年後を見通した未来への展望をもたなければならぬ。

今回はそういう意味で、明日の岡崎の教育について、夢を織りませて綴っていた。

未来の視聴覚教育

——子どもたちがくいているように見ているテレビは画面が大きい。六〇インチほどであろう。しかも薄型、壁かけ式、どの角度からも実に見やすい。今ちょうど社会科郷土番組が岡崎市教育情報センターより送られているところだ。隣の教室は個別学習室。ヘッドホンをあてたことも自分があつたプログラムで学習を進めている。

こんな学習風景が、ごく普通の状態になる日がやってくるにちがいない。

産業構造自体が、現在の「エネルギー多消費→重化学工業化」から「省エネルギー資源→知識集約的産業化」へと変化していくことであろう。技術革新は一段と進み、エレクトロニクスの進歩は教育機器の普及をいやがうえにも高めていく。一方、情報量も膨大化し、いわゆる情報化社会が到来する。県・市町村単位で教育情報センターが設置され、そ

で各学校へ教材提示はもとより、教育業務のさまざまな援助をしたり、教育の成果についての情報処理なども行なわれることになるであろう。

学校では教育効果が最も上がると考えた教育情報を入力し、機器を随時使用して効果的な授業を展開していく。しかし、いくら高度な機械が出現しても機器は万能ではない。社会が高度化すればするほどいつそう教師と子どもの心のふれあい

(葵中 加藤憲尚)

教育



美術教育・これから

美術教育の進展に伴って、今後は専科制がふえてくるのではないか。それにしたがって施設の充実、教材の精選等もなされ、授業形態も変わってくる。

例えば、スクリーンを常設し、自作の教材や資料などを実物投影機を使って学習を進める、といった具合である。

また、造形センターなども設置され、美術教育の資料センターとして、あるいは、美術教室として大いに活用されるにちがいない。

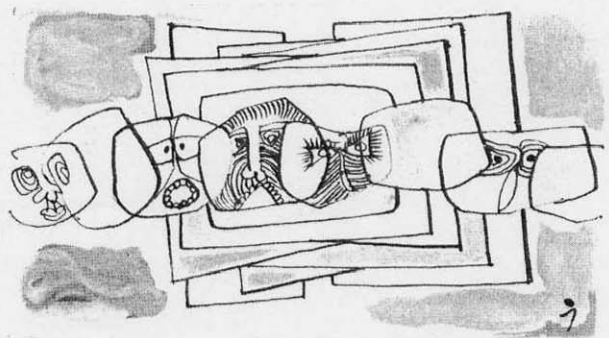
一方、岡崎つ子展も、展示するための野外展から、作品群で構成する造形展に移行してきたように、子どもたちがかいたり使ったりすることが会場の中心を占め、作品がそれを包むというような、躍動する子どもの姿に象徴される野外展を考えている。

(三島小 鈴木正純)

本好きな子どもに育てたい

「はやく芽を出せ、柿の種……」いつの間にかやら眠りこけた祖母をゆり起こして、「それから、それから」と、話をせがんだ幼い日の寝物語の思い出。「……でんでん太鼓に笙の笛……」の眠らせ唄などとともに、さだかではないが耳に残る。

こうした揺り籠時代の寝物語は、幼い日の夢をふくらませ、本好きな心を大き



くはぐくんでいく。

しかし、核家族化が進み、両親ともに忙しい現代では、こうした情緒的な香り

は次第に失われようとしている。

長じて学校で学ぶ時代にも、刺激が多様化して焦点がぼけ、子どもは子どもなりに「せせこましい」明け暮れになっているように思われる。

そうであればこそ、学校としては、ぜひとも読書に焦点を合わせ、本を読む機会を意図的に設け、習慣化をはかるべく読書生活を継続させたいものである。

本の楽しさを何としても体得させたい。

技術教育・その現状と未来

発足して十五年になるこの教科も、それなりの歴史を築いてきた。

かつての「つくり方主義」から、現在では、人間形成の面に重点がおかれ、子供の主体的・創造的な実践活動を通して、ものを作る喜びを味わわせながら、技術の基礎を習得させることを大きなねらいにしている。

その成果の最もよく表われたのが、昨年行われた「岡崎の技術家庭科作品展」である。木材加工から保育に至るまで、一つ一つの科学的根拠を究明するとともに、目的にかなった製作品をまとめていく点が大きな特徴といえる。どれを見て



岡崎の  
あすの



も、生活と直接結びついた機能や構造をもつていて、岡崎っ子」独特の創意工夫と技術の高さを表している。

城や神社仏閣の建築や石工など、歴史的技術の流れを汲む岡崎の子どもたちにとって必要なことは、近代産業の技術と密接な関係を持ちながら、自分の生活と技術の係わりを認識することである。

さらに、将来に向かって有効な行動を選択できるために、その判断の基礎となる情報・物質・エネルギーを収集し、それらを目的によって適切に処理する能力を身につけさせなければならないと思う。

(竜海中 小久保 良)

揺り籠時代の物語が失われようとしている時代であればこそ、幼時の頃から興味をそそる手だてが大事であり、「語り聞かせ、読み聞かせ」等を欠いてはならないであろう。また一方、教科の学習に関連させて、いつも本に親しませる手だてを講じてやることも、今後大いに強調さ

「情報の考え」を取り入れた  
国語学習を

児童は日々家庭生活や学校生活、登下校時において教育情報(主として授業の中で得た情報)とかマスコミ情報(主としてテレビ、雑誌、新聞などを通して得たもの)とか言われる情報等を、ひよつとしたら大人以上に感受しているものと思われる。しかも、児童は大人と比べて情報に対する価値観が乏しいため、学習や日常生活に必要な情報を、児童が感受した多くの情報の中から精選(比較、弁別、選択)して「情報化」する能力に欠けている。

激動する情報化社会を生きぬいていかねばならないすべての児童が、情報の渦に巻きこまれ、おし流されることなくテキパキと情報を主体的に処理していこうとする態度や能力の素地を培うことが、未来社会の教育の使命だと考える。

国語の学習は情報の立役者である文字やことばを読み、話し、聞き、書いたりすることを主要な学習活動とする教科である。「情報の考え」を国語学習に取り

れなくてはならない。子ども向きの図書が巷にあふれている。それがかえって、恵まれすぎた不幸とも言うべきか。いつでも読めることの慢心は、いつも読まないことに通じること恐れる。

(男川小 伊奥田静夫)



入れることにより、指導法の改善や創造化を図り、ややもすると指導法にマンネリ化や固定化のきらいが見られる国語教育を激動する社会情勢に即応して推進させていきたい。

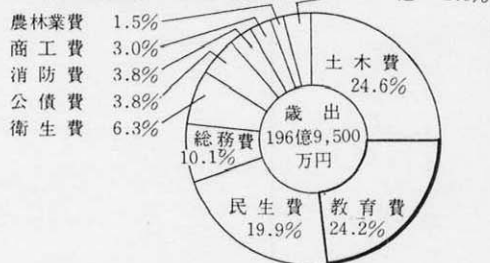
(細川小 小林 治)

# 校舎の新增築は7校

VTR、図書館用図書など充実

—— 50年度教育費予算のあらまし ——

## ■一般会計歳出における教育費



総額四四三億円の本年度岡崎市当初予算が、七つの重点項目を中心として編成された。そのうち「人間性豊かな人づくりと文化の振興」を旨とせず教育費についてみると、一般会計一九六億九五〇〇万の二四・二%を占める四七億六九二〇万五千元（前年度当初比六六・七%増）の大型予算となった。

これは、財政硬直化の度合いが深まり全体として安定、堅実型といわれた本年度予算の中では格別の措置であり、福祉、教育文化の充実振興にかける並々ならぬ意欲を示したものと見えよう。教育費中の主な内容を見ると次のとおりである。

**▲義務教育施設の整備** 一五億

三三〇万円、前年度比四億三六七九万円増。児童急増と学校用地の狭隘対策として前年度から施行中の緑丘小（新設）岡崎小（移転）の継続整備に加え、五一年開校を旨とした大樹寺小の分離校新設、それに常磐、竜谷両小の移転新築、六ツ美北部小、岩津中の増築、男川小の体育館建設と一挙に八校の新、増築事業が進む。ほかでは、梅園小に低学年用プールの設置、小四、中一校に非常警報設備、小九、中一校に自動火災報知設備等の整備が挙げられる。

**▲学校教育の振興** 四億一七一九万二千円、前年度比四九八六万七千円増。四九年度全小学校に設置して画期的な効果をあげ

子算見積額	9年度当初比%	
議費	190,214	110.8
会務費	1,983,172	122.6
衛生費	3,925,930	130.3
衛生費	1,259,590	101.7
労働費	204,226	134.1
農業費	304,173	123.5
林業費	581,364	115.8
土木費	4,835,881	113.1
防衛費	745,267	135.2
教育費	<b>4,769,205</b>	<b>166.7</b>
環境費	69,819	77.7
全費	53,163	—
旧費	752,616	135.1
復費	30,380	1355.0
債出	10,000	100.0
支備	10,000	100.0
諸子計	19,695,000	129.0

教育総務費	260,408	122.5
小学校校費	1,911,317	149.6
中学校校費	393,002	115.1
幼稚園校費	96,031	138.2
学校教育費	474,716	115.4
社会教育費	466,707	312.1
保健体育費	1,167,024	292.5
計	4,769,205	166.7

たVTAの全中学校への設置をはじめ、小学校の鼓笛隊楽器の更新制度の新設（中学校のプラスチック用楽器は前年度から）、学校図書館図書の特別整備費の新規計上、小六、中二校の環境緑化費、全小中学校の育苗設置費、ピアノ（小六、中一校）の購入費等いずれも教育現場待望の措置といえよう。さらに、大学、高校生への就学奨励金、準要保護児童生徒への就学援助制新設、私立学校補助金、幼稚園就園奨励補助金等をいずれも増額あるいは拡大する。

教師の教育研究充実の面では引き続きグループ研究、市民大講義、現職教育補助、県外研修、海外研修等の委託料、補助金、旅費が増額され強力に推進される。

**▲社会教育の振興** 一億一六六〇万五千元、前年度比七四九七万三千円増。周辺部二十四か所（小学区単位）を巡回サービスする移動図書館設置のため中型バス改造車一台と図書五四〇〇冊の購入、郷土の文化遺産の継承、自然愛護、奉仕活動などの「ふるさと運動」を行なう団体への事業補助金、須渕町に三か年計画で建設をはじめる少年のための総合社会教育施設「少年自

然の家」の初年度費用として用地測量、造成費の計上、さらに公民館活動の一環として乳幼児学級（四学級）の開設等はいずれも新規事業。ほかにPTA活動費の補助、学区社会教育事業補助等の増額がはかられる。

**▲文化の振興** 三五一万五千元。北野廃寺跡地（総面積一万三一一〇平方尺）を二年計画で史跡公園化するための整備事業費、郷土の大科学者を顕彰する本多光太郎展の開催費、六名町の真宮遺跡の発掘調査や源氏ポタル増殖事業等をすすめる文化財の保護調査費が計上されるなど、いずれもユニークな郷土文化の振興が期待される。

**▲体育施設の充実** 十億四五八五万七千円。前年度比七億三七三万八千円増。国の財政事情で遅れた市総合体育館も昨年八月着工。三か年計画第二年度の本年度は一挙に九億九千万円を計上。来年六月末には東海に有数の規模を誇る大体育館が完成する。

**▲体育の振興** 六九六〇万五千元。岡崎体育協会、市民体育祭、地域市民スポーツ振興の助成金の増額。ほかに学校開放事業費として小学校十六校分を計上、引き続き市民の体力増進に努める。

おしらせ



## 新設緑丘小学校スタート

戦後はじめて三十五番目の小学校

小学校で一斉に入學式、始業式の行なわれた四月三日、市内三十五番目の小学校新設緑丘小が喜びの開校式を挙げた。新設開校は、美合小の児童数は次のとおり。

建設が二年計画で進められるため、さしあたり校舎一棟で収容しきれない児童(三、四年)はしばらく美合小に通うことになるが、完成予定の今年末にはそれも解消する見通しで、児童の喜びはもちろん、全員が新任の教職員、学区民の張り切ぶりも大変で、早くも校名にふさわしい、新鮮な力強い学校づくりの歩みが始まっている。

なお、戦後市内に小学校が新設されたのは、愛宕小の復活開校(昭和三十一年)を除けば緑丘小がはじめて。緑丘小の概要

### 【刊行あんない】

◇子どもへのとびら ーはねっ子の記録ー 羽根小学校  
子どものさりげない行動や心情の中に変容、成長の可能性をさぐる四十二編。A5一七〇P  
◇ひびき合う学校 ー豊かな心情を育てる学級づくりー

### 美合小学校

望ましい人間関係と豊かな心  
情育成の教育を「学級づくり」に求めた実践記録A5一九〇P  
◇力いっぱい(常南小実践記録) 児童、教師、学区民が取り組んだ文字どおり力いっぱい学級づくりの歩み。A5一二八P

師が圧倒的に多いのは最近の傾向そのものだが、誰もが職場の華やホーブラしい新鮮な魅力に溢れていて新学期の学校で話題の中心となっている。新教師は次の通り。

【小学校】六三名(男24女39)  
▽梅園 長島洋子、柴田秀夫、松原ミツ子▽根石 清水貞治、岡田要、杉田洋子▽男川 中村素子▽美合 高橋鏡二、深見俊

幸▽羽根 藤井京子、小林義孝  
山田靖彦▽岡崎 福井慎吾、胡桃計子、藤谷都世美▽六名 市川起佐子▽三島 白井睦美、安藤昭子▽連尺 神尾まゆみ、志賀孝人、奥井昭子▽広幡 鈴木千恵▽井田 佐々木ひろみ、新美小夜子、田口敬子▽福岡 野々山宣子、渡辺由美、鈴木豊幸▽竜谷 伊奈久秋、益戸真▽藤川 高比良泰太、鈴木美知子▽本宿 中島昭江、市川さゆり、岩瀬政昭▽常磐 浅井考司、永井君枝▽恵田 稲垣まり子▽細川 二瓶千秋、牧野葉子、山崎義久、足立恵子▽岩津 大原典子、加藤厚子▽大樹寺 柴田三保子、渡辺佐知子、武田裕幸▽矢東 鳥居裕子、高山治朗▽矢北 石川守彦、近藤美智子▽矢

西 大野光代、三浦千幸、市川緑▽矢南 杉浦高子、吉沢福久代▽六中小 杉崎美典、酒井ひとみ▽六北 白井映子、原田平黒野和大▽緑丘 秋山佳子、鈴木弘子

【中学校】二六名(男7女19)  
▽甲山 成田肇、丸尾恭世、林尚子、津田みち子▽美川 羽鳥富紀▽南中 鈴木和子、小倉敏幸▽竜海 井上典子、三ツ矢芳子▽葵中 今泉加代、名倉達也山本光昭、山田佳枝▽城北 山崎直美▽福岡 中山秀昭、松田みどり▽東海 中根利枝子▽香山 中根里子、河合美代子▽岩津 佐伯友之、安藤みどり、高梨寛▽矢作 仲川京子、寺尾厚子▽六ツ美 加藤由美子、谷川

## かがみ

おばさん先生

河合 澤 江

職員室の片すみで、新卒の女の先生が三人、何か小声で話している。しばらくして、そのうちの一人が「先生、ちょっと教えてください。」とえんりょがちに話しかけてきた。こわばった顔は、大へんな決心のあげくらしい。

二十数年前、私にもそんな時代があった。学校を変わるたびに、年配の先生には、何か言われそうに敬遠しがちだった。しかし、勇気をふるって近づきたずねると、むこうでも待っていたかのように、親切に教えてくださり、大の仲よしになってしまったもの。

いつのまにか、自分が、若い人から見れば、ちょうどけむたがられる年齢になってしまった。

「嫁いびり」をしない、話のわかる「おばさん先生」にならなければと心がけ、気持ちだけでも、いつまでも若く新鮮でありたいと願うきょうこのごろである。

(井田小)



## 4月の行事

日	曜	行	事
1	火	辞令交付、桜まつり	(15日まで)
2	水		
3	木	小学校入学式、始業式、緑丘小開校式	
4	金	中学校入学式、始業式	
5	土	小中学校退任式	
6	日	桜まつり市民スポーツ大会開始	
7	月		
8	火	古陶磁器展(13日まで市美術館) 文化財保護審議会(郷土館)	
9	水	社会教育審議会	
10	木	定例教育委員会(市役所) 教科指導員打合せ(市役所)	
11	金	学級査定第1日(福岡小~岡崎小)	
12	土		
13	日		
14	月	学級査定第2日(三島小~緑丘小)	
15	火	現職教育委員会総会(講演 久徳重盛先生、甲山中)	
16	水		
17	木	学級査定第3日(城北中~矢南小)	
18	金	三教研委員会(附小) 現職教育給食部会(婦人会館)	
19	土	定例校長会(交通公園)	
20	日		
21	月	学級査定第4日(愛宕小~奥殿小)	
22	火	配当予算説明会(梅園小)	
23	水	市子ども会育成者連絡協議会総会(市役所) 学級査定第5日(常南小~細川小)	
24	木	FBC審査会(細川、愛宕)	
25	金	新任教員郷土学習会(出発十王公園) 県主事会(名古屋) 学級査定第6日(梅園小~美合小)	
26	土		
27	日		
28	月	学級査定第7日(河合中~山中小)	
29	火	(天皇誕生日)美協展(5月4日まで市美術館)	
30	水	現職教育保健部会(甲山中) 生活指導主任者会(愛護センター)	

- 題字
- タイトルイラスト
- カット

内田市長  
谷沢勝(葵中)  
宇佐美利郎(常磐中)



この本を

- |                     |       |                  |
|---------------------|-------|------------------|
| ○日本人の手紙<br>新潮社      | 50・2  | 池田弥三郎<br>¥ 1,200 |
| ○わが思索・わが風土<br>朝日新聞社 | 49・11 | 朝日新聞社<br>¥ 620   |
| ○栗の樹<br>毎日新聞社       | 49・9  | 小林秀雄<br>¥ 1,500  |
| ○植物の旅<br>芸艸堂        | 50・2  | 松田 修<br>¥ 980    |
| ○近代化と教育<br>東京大学出版会  | 49・12 | 永井道雄<br>¥ 800    |
| ○一向一揆の基礎講造<br>吉川弘文館 | 50・2  | 新行紀一<br>¥ 2,900  |
| ○あかね雲<br>新潮社        | 50・1  | 井上 靖<br>¥ 850    |
| ○あの笑いこけた日々<br>角川書店  | 50・2  | 加賀乙彦<br>¥ 1,200  |
| ○私の自然観<br>筑摩書房      |       | 今西錦司<br>¥ 950    |

寸  
言

▲若葉わさわさ風におどれる喜び

▲「随所に主となる」「一隅を照らす」  
新学期——人それぞれに期するものがあろう。

▲ついこの間——つぼみ ちらほら

二分咲き 満開近し

満開 散りそめ

落花盛ん

葉桜の候

新入生の哀愁もまたかくのごとしか。